

重点施策 14 文化財の保存及び積極的な活用

【施策方針】

国重要文化財に指定されている日土小学校の校舎見学会や梅之堂三尊仏の一般公開等、文化財の保存・活用に努めるとともに、唐獅子五ツ鹿共演大会等を通じ伝統的行事文化の継承を図り、旧白石和太郎洋館を中核とした保内町の古いまちなみの保存、紹介を行う。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

文化財の保存、継承

- ① 重要文化財日土小学校校舎見学会
- ② 梅之堂三尊仏の一般公開
- ③ 旧白石和太郎洋館管理、一般公開
- ④ 文化財保護審議会の開催
- ⑤ 歴史的建造物の保存、整備

(2) 主な施策・事業の実施状況

① 重要文化財日土小学校校舎見学会

平成24年、戦後木造建築として初めて国重要文化財に指定された日土小学校は、全国から多くの見学依頼が寄せられているが、現役の小学校であることから、児童への影響を考え原則非公開とし、長期休暇の間に年3回の見学会を計画した。令和元年度は391名の見学者があった。なお、3回目となる令和2年3月の春休み見学会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

② 梅之堂三尊仏の一般公開

国指定重要文化財である梅之堂三尊仏の一般公開は、5月から12月の第2日曜日及び8月15日、10月19日の合計10回行った。

③ 旧白石和太郎洋館管理、一般公開

市指定文化財旧白石和太郎洋館については、毎月第2・第4日曜日に一般公開し、随時イベントや会議用に貸し出しを行った。旧保内町の繁栄、栄華の跡を今日にまで遺すものとして、公開は無料とした。

洋館の管理は、一般から募集した管理者に委託している。(旧白石和太郎洋館管理委託料 240千円) また、まちなみ見学用駐車場及び公衆トイレ管理業務についても、同じくこの洋館の管理者に委託した。見学用駐車場と公衆トイレは、旧白石和太郎洋館を中核とした旧保内町のまちなみ見学者・来訪者専用につ造ったものである。(まちなみ見学用駐車場及び公衆便所管理業務委託料 240千円) なお、本町にも町並み見学用駐車場を整備し供用を開始した。

④ 文化財保護審議会の開催

有識者による文化財保護審議委員を各分野から選任し、文化財の保護、新しい市文化財の指定及び指定の解除等について議論をし、文化行政に反映させる意見や助言をいただいた。

⑤ 歴史的建造物の保存、整備

平成31年3月に着工した市指定文化財「菊池清治邸」の改修事業について、令和2年2月に完成した。

【事務事業点検評価委員意見】

- 国重要文化財として指定された日土小学校の校舎は、八幡浜市の宝である。建築家が、「子どもが快適に暮らせる、人にやさしい空間とは何か」ということを考えて建設したと聞いている。全国から多くの見学依頼があり、今年度は、391名の見学者があった。実際に学校生活を送っている児童や教職員の方々の声や、見学者の感想などを発信すると、校舎見学会が、一層生きたものになると思われる。
- 国指定重要文化財梅之堂三尊仏の一般公開については、広報などに掲載する際、市民が興味をもてるような、歴史的背景なども加えた紹介の工夫をしてほしい。
- 白石和太郎洋館は、旧保内町の繁栄・栄華の跡を今日まで残すものとして、非常に貴重な建物である。公開が無料であること、トイレや駐車場がしっかりと整備されていることは、見学者や来訪者にとってありがたく、好印象が残ることになる。
- 文化財保護審議会については、今後も、文化財の保護などに向けての意見や助言をいただきたい。
- 文化財は、「守ること」と「生活の中で生かすこと」が共存できることが望ましい。市民の文化財を大切に思う意識が高まることで、環境整備も行われ、地域おこしへとつながっていく。菊池清治邸は、建物保存だけでなく、浜之町、船場通り、本町、大法寺などを含む「伊予の大阪・港町」というエリアづくりの中で考えてほしい。

【自己評価】

- 国重要文化財である日土小学校中校舎・東校舎は、改修工事後10年を経て損傷が著しい南面外壁を中心に塗装の塗り替え工事を行っている。今後も定期的な修繕を行いながら、学校としての使用及び重要文化財としての保存・公開を行っていききたい。
- 梅之堂三尊仏をはじめとした市内の文化財について、広報や市ホームページなどで紹介を行っていききたい。
- 市内には各所に貴重な建造物が残り、市の発展の歴史を伝えている。浜之町の菊池清治邸の保存改修工事が完成し、清治邸の貸館や一般公開を開始した。ボランティアガイドやまちづくりの団体などと協力し、ここを拠点として「伊予の大阪」と言われた八幡浜の魅力の発信や掘り起しを行っていききたい。